

～現代日本における家事労働
モラルと家事参加の精神に関
する一考察～

～A Study to the moral of
household labor, and the mind
for housework participation～

1. 論文タイトル：～現代日本における家事労働モラルと家事参加の精神支柱に関する一考察～

2. 論文タイトル（英語）：～A Study to the moral of household labor, and the mind for housework participation～

3. キーワード：子ども学(子ども教育学)、禅宗の修行、家事労働・分担、精神的自立

4. 論文要旨

家事とは家庭内の仕事であるにも関わらず、その労働を貨幣評価すると、日本の GDP の約 4 分の 1 の数値にもなる。しかし、生活の大部分を占めている家事に対する評価は低く、主にその労働を担う母親を手伝う子供も減少している。近年、日本人の子供は身の周りの家事を母親に依存し、それが当然であるように思っている人が増加する傾向にある。過去や他の国々のデータと比較しても、他人への依存度が高いという結果は明らかであるが、家事に従事していない人も、奉仕されることへの感謝、また自らやるべきであるという意思はあると考える。

その事実を踏まえ、子供が家事に従事することの必要性を考えるため、幼少期から家事に従事してきた人と、してこなかった人での現在での家事達成率を検証する。それにより、実際に幼少期から家事に従事することで将来の自立が促進されるという結果を証明する。

また、やるべき心を行動に移すきっかけとして、奉仕する、奉仕されることで感じられる好影響を示すことで、行動に移すきっかけづくりをする。さらに、実効的、実利的な効果だけではなく日本社会で古くから存在していた「日常的家事」＝「精神的修業」という精神にも結び付き、日本人の忍耐力にもつながっていると考える。過去の文献には曹洞宗始祖の道元による「典座教訓」という、奉仕の心を綴った文書があり、その心を紐解き、現代に甦らせ、自ら積極的に家事をすることにより、母親の負担を軽減し、自立する力を身に着けることが可能になると考える。

それを論証するために、1 章では日本人の家事従事の現状を示すため、過去や外国との比較やアンケート調査を行い、2 章では若者が家事に従事することの必要性を考える。3 章では家事に従事するきっかけとして「典座教訓」の奉仕の心を紐解き、その心を現代に甦らせ、子供の家事離れを改善し、自立できる力を身に付ける手助けを行う、以下このような順序で進めていく。

【目次】

第1章 日本人における家事の現状

第1節 家事労働とは

第2節 比較

第3節 日本人の潜在意識

第2章 子供の家事従事の必要性

第1節 子供の自立

第2節 身辺自立の実態調査

第3章 道元の教訓を現代へ

第1節 奉仕の心から生ずる好影響

第2節 道元の教訓

第4章 総括

参考文献・データ出典

第1章 日本人における家事の現状

第1節 家事労働とは

家事労働は「労働という側面からみれば、個別的家庭生活の場で、家族員の広い生命活動を含めた労働力の再生産」のために行われるものである¹。つまりそれは、家事・育児・家政管理の労働であり、社会的労働過程の労働に対して私的労働であり、かつ個人的消費の過程での労働である。しかし、他の側面からみれば「家庭生活の場で日々繰り返されることにより、家庭生活の歴史を築き、家庭生活文化を伝承し、創造するという文化的、技術的、教育側面もあわせ持っている²。」

内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部の無償労働³の貨幣評価の調査研究のデータによると、この家事労働などの無償労働に使った時間を貨幣評価すると、2006年時点のデータでは、機会費用法⁴（以下、OC法と言う。）で約132兆円となる。この数値は2006年度の名目GDP⁵比率で表すと全体の約26%に相当する大きな金額である。そのうち、無償労働の貨幣評価額を男女別にみると、

¹大森和子『家事労働』光生館、1981年、p.3

²同上

³ 収入を伴わない無給の労働。本推計における無償労働とは、無償労働のうちサービスを提供する主体とそのサービスを享受する主体が分離可能（すなわち、そのサービスの提供を第三者に代わってもらうことができる）で、かつ市場でそのサービスが提供されうる行動とした。これは「第三者基準」と呼ばれ、国際的に用いられている基準である。

具体的には、推計の基礎となる統計の調査項目を踏まえ、無償労働を以下の行動に区分して推計を行った。具体的には、家事（炊事、掃除、洗濯、縫物・編物、家庭雑事）、介護・看護、育児、買物、社会的活動

⁴機会費用法(Opportunity cost method)

無償労働を行うことにより、市場に労働を提供することを見合わせたことによって失った賃金（逸失利益）で評価する方法である。

この方法については、無償労働の内容ではなく、誰が無償労働を行ったかによって評価が変わるという問題が指摘されている。

（利用統計…「賃金構造基本統計調査」（労働省））

⁵ 一定期間に国内で生産された商品・サービスの合計額である国内総生産（GDP）を、その時の市場価格で評価したもの。物価の変動を反映した数値であるため、実質国内総生産（実質 GDP）よりも生活実感に近いとされる

2006年度における女性の構成比は、OC法で80.5%であり、主に女性が家事を負担していることが顕著に表されている。

このように、近年、日本人は母親を主とした女性の家族構成員に家事を負担させる傾向にあると考えられる。つまりこれは、父親や子供が身の周りの家事を自分でやらず、母親に任せる傾向にあるととらえることができる。それにより、母親の家事負担が必要以上に増加し、若者が家事に従事する機会がかつての時代に比べて減少したことで以前に比べ、子供が一人で生きていく能力が次第に失われていく傾向があると考えることができる。当然、将来、大人として立派に成長をしていくためには、自分の身の回りのことを自分でできるようになる力が必要ではないだろうか⁶。

もともと、歴史的にみればはるか以前からこのように母親など女性に家事を押し付ける状態が続いてきたわけではない。農業が主産業であった時代の日本では、子供は早くから家業や家事の手伝いに参加していた。近代的上下水道、ガス、電気などのライフラインの範疇にあるインフラが整備される前の時代の主な子どもの家事手伝いは、「掃除」「水汲み」「洗濯」「食事の仕度」「子守」「使い走り」「雨戸のあけ閉め」などである。それらの手伝いにより親は仕事や家業に専念でき、ときには疲れた体を休めることもできた。子供の家事は現在よりも、家族の日常の再生産上無くてはならない活動であった⁷。

しかし、社会の工業化に伴い家庭は「生産・消費」の場から「消費」の場へと変容し、また義務教育等学校教育の展開⁸により、子供の生活では勉強が手伝いや遊びより優先されるようになった。農業社会の工業化は職業の農業と非農業への分化だけでなく、雇用労働者の増加も伴うことにより、徐々に子どもの家事手伝いの貢献度が減ってくる家族が現れ始めた。

⁶新井真人『子供の手伝いの変化と教育』教育社会学研究第53集, 1993年

⁷ 同上。

⁸表真美「ジェンダー形成・子どもの家事労働と人間形成」『京都女子大学発達教育学部紀要』1号、p 73-79、2005年

第 2 節 比較

その事実を表したのが下の表で、この表は世論調査を行い、1970 年度と 1990 年度の子供の平日・休日の家事時間の推移を表したものである。この調査によれば、小学生、中学生、高校生、大学生ほぼすべての年代で、平日・休日関係なく、家事に従事している時間が年々減っていることがわかる⁹。この結果からも明らかなように、近年では、年々日本の子供は家事に従事する機会が減少している。

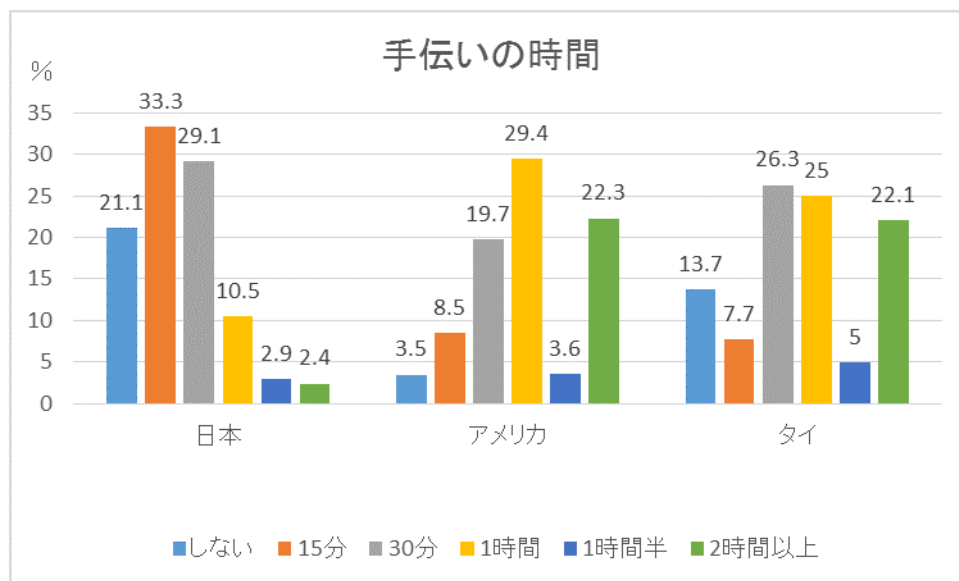
	全員平均時間の変化(分)					
	全体					
	平日		土曜		日曜	
	70年	90年	70年	90年	70年	90年
小学生	21	16	36	29	81	61
中学生	42	15	59	30	2	58
高校生	45	25	67	35	125	66
大学生	29	44	65	60	75	69

出典：NHK 世論調査部「図説 日本人の生活時間 1990」日本放送出版協会、p.124

さらにここではその事実を強調するために、日本、アメリカ、タイにおける 10 歳から 15 歳までの子供を持つ父親又は母親を対象とした、子供が家庭内で家事に従事している割合を比較してみる。縦は国別の実際に家庭内で子供が家事に従事している時間の割合、横は実際に従事している時間の項目を示している。このデータによれば、10 歳から 15 歳の子供の家事の手伝いの平均時間は、日本(24 分)、アメリカ(1 時間 12 分)、タイ(1 時間 6 分)と、日本の子供が他の国に比べて家庭内で家事に従事する時間が極めて少ないことがわかる。¹⁰

⁹ NHK 世論調査部「図説 日本人の生活時間 1990」日本放送出版協会、p.124

¹⁰総務庁青少年対策本部「日本の子供と母親—国際比較—」大蔵省印刷局、p.34



出典：総務庁青少年対策本部「日本の子供と母親－国際比較－」大蔵省印刷局、p.34

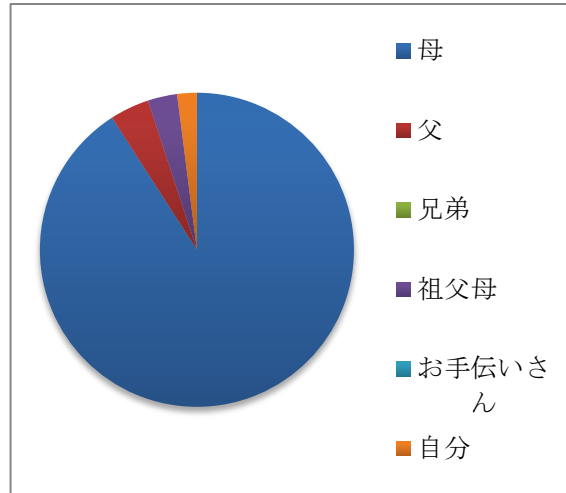
つまり、過去と比較しても、アメリカのような現代の他の先進国と比較しても、日本の子供が家事から離れている点が明らかである。では実際に日本人の子供当人もその事実を実感しているのだろうか。以下のアンケート調査でみる。

第 3 節 日本人の潜在意識

我々は日本の子供が家事に参加する意思はあるが行動に移すことができていないという仮定を立て、検証するために、大学生を対象としたアンケート調査を行った。アンケートは WEB アンケートを作成し、スノーボール形式で展開した。調査期間は 2015 年 8 月 10 日から 8 月 13 日の 4 日間であり、SNS¹¹を利用して拡散した。調査対象は 18 歳以上の大学生とし、それ以外の回答は無効回答とした。3 日間で 250 人の回答を得ることができ、そのうちの 140 人が男子、110 人が女子の回答という結果となった。内容と結果は下記のとおりである。

¹¹ Social Networking Service の略。今回は Twitter と LINE を使用。

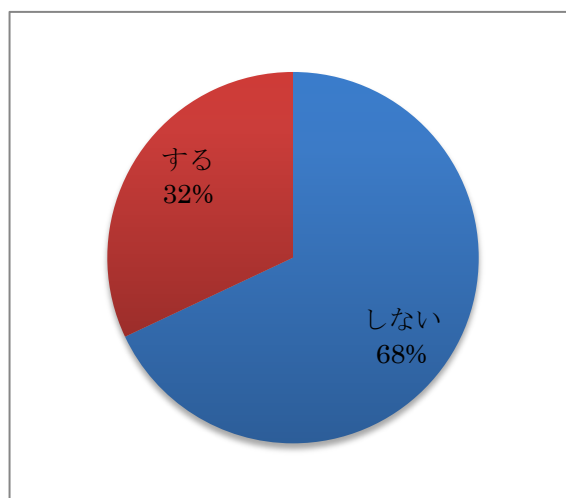
設問 1 家庭内（一人暮らしの人は実家）で主に家事を行っているのは誰か



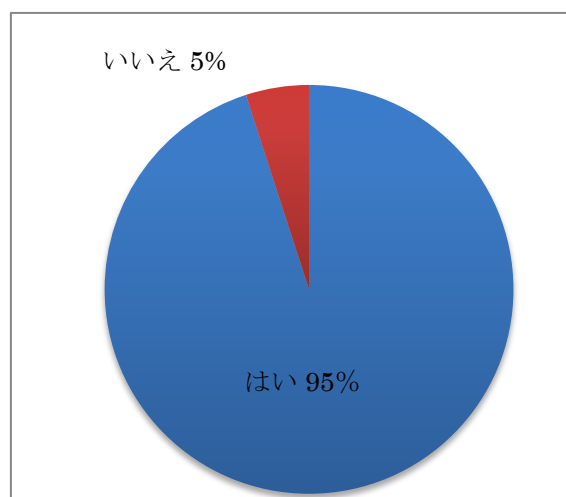
設問 2 家事は大変だと思うか



設問 3 自ら積極的に家事をするか



設問 4 家事は分担すべきであるか



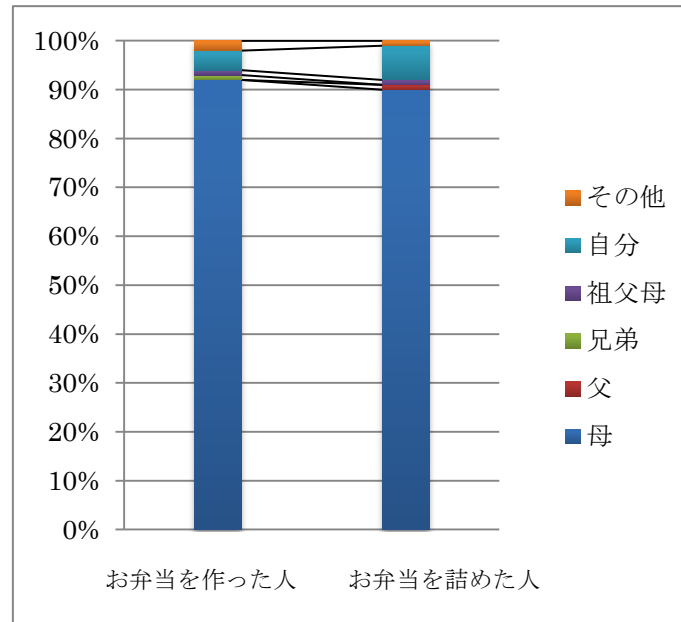
今回のアンケート調査ではこのような結果を得ることができた。

まず設問 1 の結果を見ると約 90%の人が家で主に家事をしているのは母親であると回答している。設問 2 では回答者全員が家事は大変であると認識していることがわかった。しかし、設問 3 では自ら積極的に家事を手伝っている人は 32%と落ち込んでしまう。設問 4 の家事は分担すべきであるかという問いには 95%の人が分担すべきであると答えている。

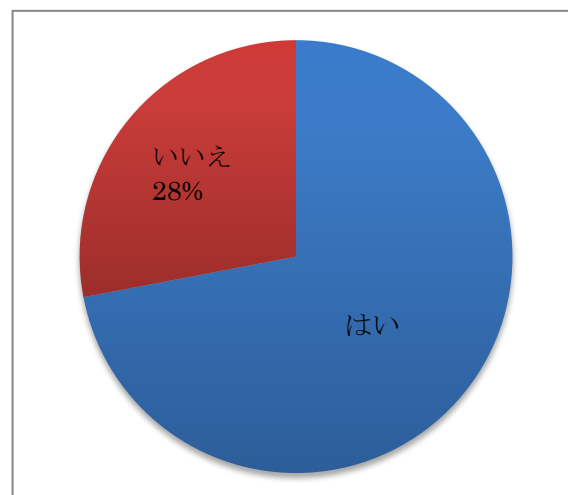
つまり、普段母親が行っている家事は重労働であり、その大変な家事を本当は分担すべきであると感じてはいるが、実際には行動に起こせていないという仮説に沿った結果となった。

これらの結果は以下お弁当と掃除の例にも同様な結果が現れた。

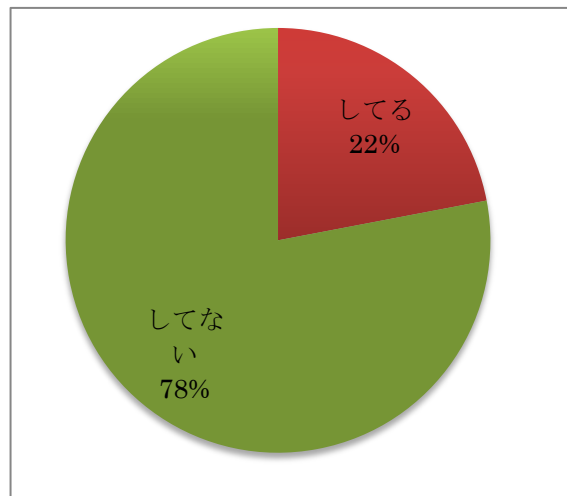
設問 5・6 お弁当を作っている人と詰めている人は誰か



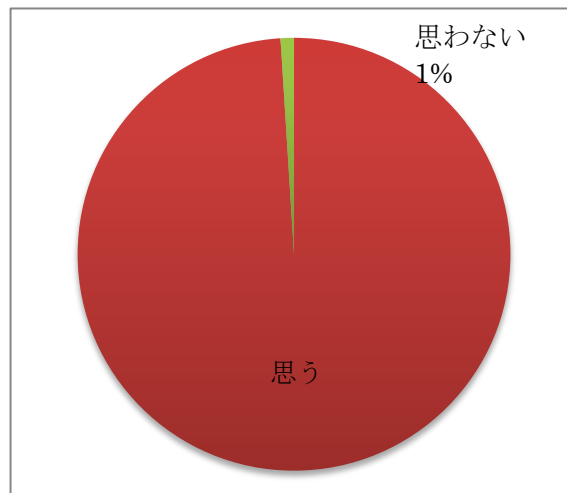
設問 7 せめて自ら詰めることはすべきか



設問 8 家を出る前にベッドメイキングをしているか



設問 9 掃除を本当はするべきだと思うか



出所) 同上アンケートにより著者作成

お弁当に関する設問 5・6 の問いから分かることは、お弁当を作っている人と詰めている人とでは多少の差が生じたものの、どちらも 90% 近くが母親の家事の一環であった。設問 7 ではせめて自らお弁当の具を詰めるべきだと回答した人は 70% であった。

続いて、設問 8 からは掃除についての問いである。家を出る前にベッドメイキングをすることが習慣となっている人は 22% であるが、自らベッドメイキング（掃除）をすべきであると回答した人は 99% であった。かつての和室中心の日本家屋では蒲団敷や片づけは当たり前のように自分で行っていた慣行であっ

たが、現代の状況は以上のようになっているのである。

アンケートを総括すると日本の子供は母親に負担させていた、お弁当や掃除をはじめとする家事に対して、大変な仕事であるので、母親だけに任せず分担すべきであるという意識はもっている。しかし、実際には母親にやってもらってきたのが現状であるということがわかった。

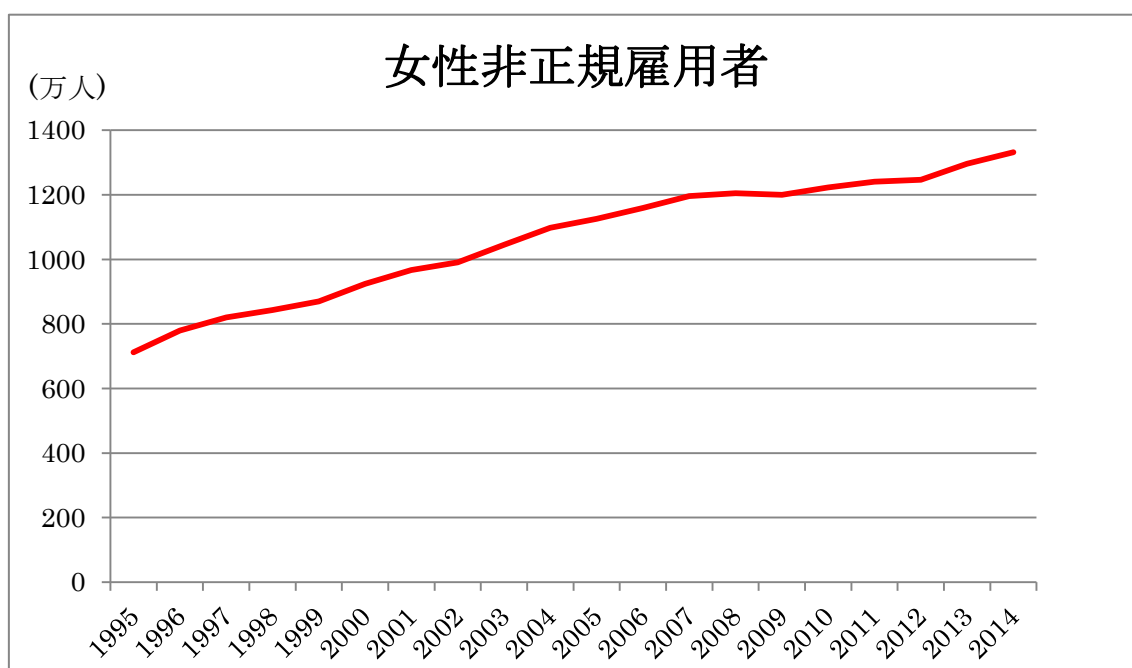
第2章 子供の家事従事の必要性

第1節 子供の自立

ではなぜ分担すべきという心があるにも関わらず、子供が家事に従事する機会が減少しているのか。1章でも述べたように、社会の工業化により教育や遊びに費やす時間が増加したことが社会的な要因であることは間違いない。しかし、もう一つの理由は、農業が主産業であった時代よりも、社会が豊かになり、安定した生活を過ごせるようになったことで、家事に割く時間が短縮されたことにより、母親一人で家事を果たすことが可能になった¹²ことも事実であろう。

だが、少子高齢化社会において女性の労働力を家庭から社会に投入する必要が叫ばれ、母親も昭和の時代の専業主婦は次第に影をひそめ、家事を負担しながらも可能なパート労働などにいそしむ姿が一般的になっている。その女性の非正規雇用の変化を年代別に表したのが下のグラフで、年々女性の非正規雇用者は増加傾向にあることがわかる。

¹²深谷昌志『「子どものお手伝い」を考える』生活者研究センター,2011年



出典：総務省「労働力調査詳細集計」(<http://www.stat.go.jp/index.htm>：

最終情報確認日 2015 年 9 月 27 日)

現在の政府もアベノミクス成長戦略の中で「すべての女性が輝ける社会づくり」を標語とし、待機児童の解消や女性の雇用拡大などを実施して女性労働力の顕在化を積極的に推進しようとしている¹³。

しかし、このような女性労働の顕在化政策はただ単に女性の雇用条件や雇用環境を改善するだけで効果は薄い。社会システムや制度などの改革と同時に子供の家事分担などのかつてあったしつけ、家庭内教育の復活など家庭環境の改善がぜひとも必要な措置ではなかろうか。子供の家事参加がもたらすものは上のような将来予想される経済規模の縮小に歯止めをかける効果だけではない。逆に手伝う側、つまり子供の側にも良い効果を生むはずである。

子供にとっても、幼少期から家事に関わることで、将来の自立の手助けになることは言を待たない。単に自立と言っても一般に意味は多義に渡り、経済的自立、精神的自立、社会的自立、身辺自立など様々な種類があるが、ここで取り上げるのはその中の身辺自立である。身辺自立とは、自分の生活の身の回り

¹³ 首相官邸ホームページ『すべての女性が輝く政策パッケージ』(<http://www.kantei.go.jp/>：最終情報確認日 2015 年 9 月 26 日)

のことを自分でできることである。1995年の総務庁青少年対策本部が行った、日本、アメリカにおける0歳から15歳までの子供を持つ父親又は母親に対する調査の子供のしつけや教育についての悩みの項目の中で、アメリカの親の1番の悩みが進学や受験であるのに対して、日本の親の1番の悩みが、基本的生活習慣が身につけていないこと¹⁴であった。この結果から現代の若者の身辺自立の欠如が懸念されていることがわかる。

では実際現代社会の中で、子供の具体的な身辺自立の欠如がどのような事実として存在するのか、以下のアンケート調査で検証してみた。

第2節 身辺自立の実態調査

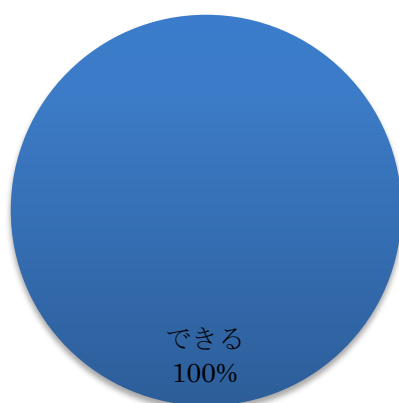
我々は、幼少期より家事の手伝いを行っていた若者は一人で家事を行い自立できている¹⁵という、を立て、検証するために、以下のアンケート調査を行った。調査方法は1章のアンケートと同様で、調査期間は2015年8月25日～29日で、調査対象も同様に18歳以上大学生とし200の回答を得ることができた。そのうち120人が男子、80人が女子という結果になった。

¹⁴ 内閣府ホームページ『子供と家族に関する国際比較調査の概要』
(<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/kodomo/kodomo.htm> : 情報最終確認日 : 2015年9月26日)

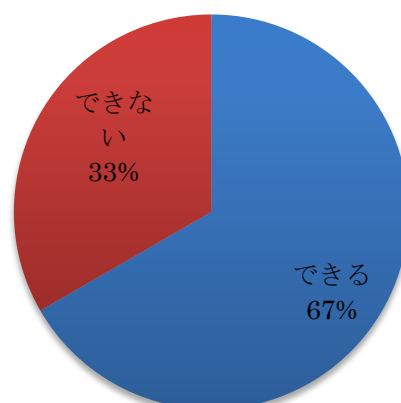
¹⁵ KAO INFORMATION 『「子供のお手伝い」調査』
http://www.kao.co.jp/lifei/info/110804/pdf/kodomo_otetsudai.pdf (情報最終確認日 2015年9月26日)

設問 1 あなたは一人で洗濯機を使い洗濯を行うことができますか

家事をしてきた

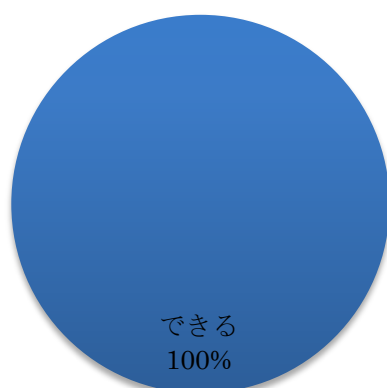


家事をしてこなかった

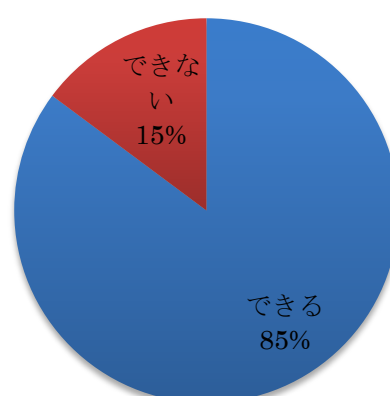


設問 2 あなたは一人でお米を研ぎ炊飯することができますか

家事をしてきた

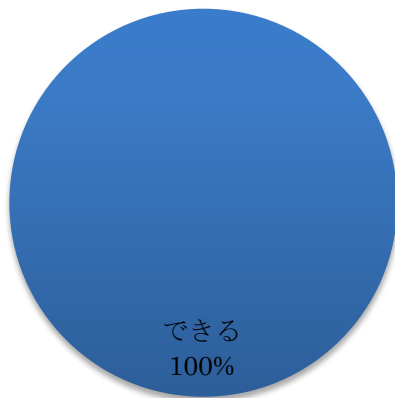


家事をしてこなかった

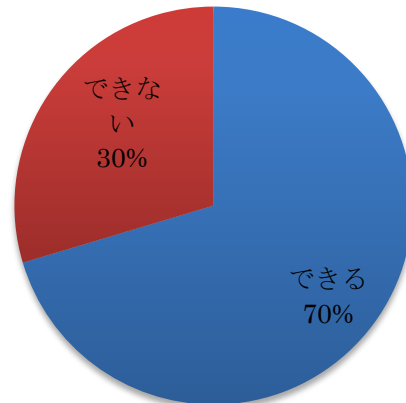


設問3 あなたは一人でシャツにアイロンがけをすることができますか

家事をしてきた



家事をしてこなかった



出所) 同上アンケートにより著者作成

その結果、幼少期に家事を積極的に手伝っていた人が「洗濯機を使い洗濯できるか」「お米を研ぎ炊飯できるか」「シャツにアイロンがけできるか」の3つの項目において、100%の人ができると回答していたのに対して、幼少期から家事の手伝いを積極的に行ってこなかった人は「洗濯機を使い洗濯できるか」と「シャツにアイロンがけできるか」においては30%の人ができないと回答し、「お米を研ぎ炊飯できるか」の質問においては15%の人ができないと回答した。

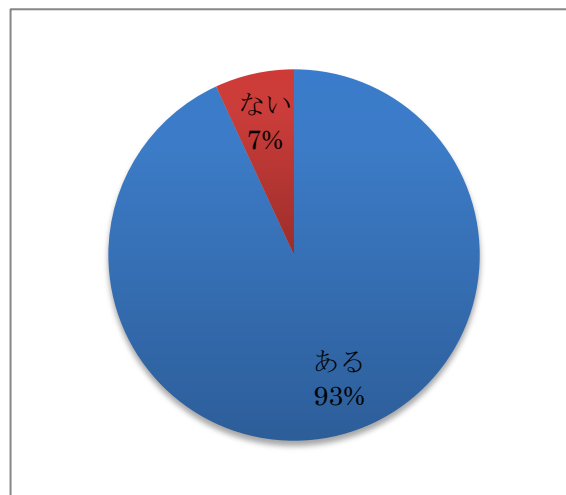
したがって、幼少期からの家事に従事し関わることは大学生の身辺自立度に大きく結びついているということを読み取ることができた。このような結果から、たとえ母親一人で家事をまかなうことができたとしても、幼少期から家事に従事することは自身の将来の自立のためにも必要であるということがわかった。

第3章 道元の教訓を現代へ

第1節 奉仕の心から生ずる好影響

幼少期から家事に従事することが労働力の有効化にとっても、そして本人の将来の自立にも貢献するのではないかと考えてきたがその事実が判明しても将来のことをまだ考えていない小学生などに必要性を正確に伝えることは困難である。1章のアンケート調査で、現代の子供も実際に行動に移せてはいないが、やるべきという気持ちはあるということは判明した。その意識を行動に移すためのきっかけとなるべく、他人から奉仕されるもしくは他人に対して奉仕することから生じる影響について現代の子供へアンケート調査¹⁶を行った。

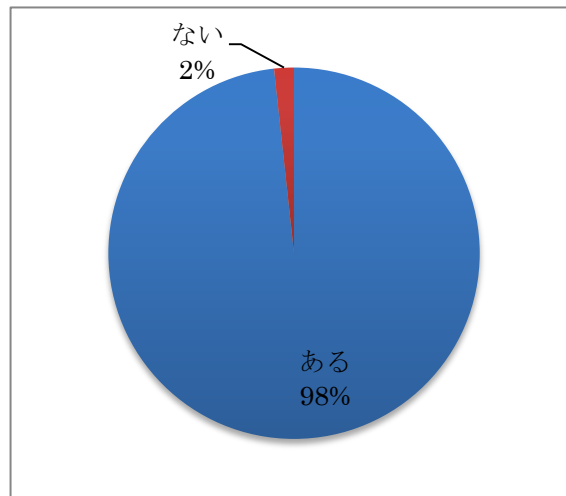
設問1 あなたは食事を作った際、意外に味がよく、そのことを楽しいと思っ
たことがあるか



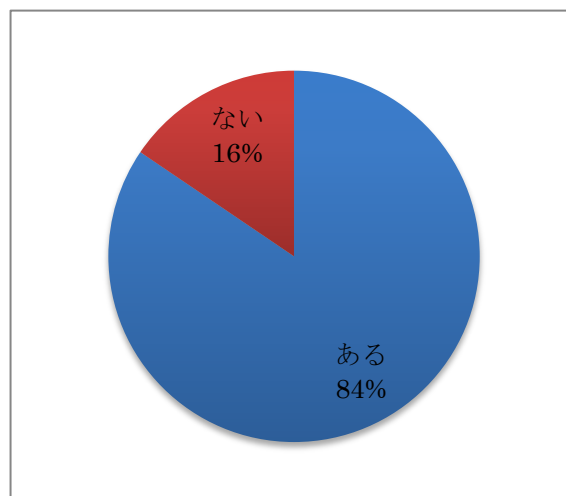
設問2 あなたは食事や掃除をしてあげて人に喜んでもらうことで嬉しいと思

¹⁶2章で行ったアンケートと同様。

ったことがあるか



設問 3 あなたは手間暇かけて作った料理をおいしいと感じたことがありますか



出所) 同上アンケートにより著者作成

このように多くの人々の中で、他人から奉仕される、または自ら奉仕することで、楽しいや嬉しい、味が美味しいといった好影響が生じることがわかった。このような奉仕の心によってプラスの影響が起こることは、年齢などに左右されにくい事象であることから、自覚することで子供から大人まで自ら家事を積極的に行うことへの手助けとなるに違いない。

第2節 道元の教訓

以上の考察により、子供のためにも社会のためにも家事手伝いは有効であるということがわかったが、それは実は、以上のような実効的、実利的な効果だけではなく、日本社会では古くから存在していた「日常的家事」＝「精神的修業」という精神にも結び付き、ひいては公共への貢献に結び付く効果も生むのではないかと筆者は考える。つまり、「他者への感謝であり、奉仕する喜びである」という考え方に基づいて禅宗を中心に展開していた宗教的な修業の中に、掃除や料理（調理）など簡単な日常の家事全般が組み込まれていたことを想起するのである。たとえば、これは、鎌倉時代の道元¹⁷の経典である「典座教訓¹⁸」の中の「喜心、老心¹⁹、大心²⁰」という3つの心得の中の「喜心」という言葉によくあてはまるのである。それまでの仏教諸宗派で行われてきた荒行など、とても真似のできないような修業ではなく、日常の家事を一生懸命行うことが仏の心に通じる修業の一つである、という考え方は、中世以降の日本では僧侶のみならず広く大衆に浸透するようになり、それが日常の事細かな清掃だけではなく、特に家族や組織の構成員全員で取りかかる大掛かりな清掃、年末の「大掃除」のように年中行事化しながら、身の回りの衛生上の問題を常にクリアする風土を形作っていたのである。ペストやコレラなどの疫病は日本にも何回となく災厄をもたらしてきたが、それは他の国や地域とは異なり、水際での徹底的な隔離やネズミなどの駆除キャンペーンなどにより、すぐに撃退されてきた²¹。災厄時にいきなり清掃や消毒などを始めるのではなく、むしろ日本では日

¹⁷鎌倉時代初期の禅僧。曹洞宗の開祖。一般には道元禅師と呼ばれる。主な著作に『正法眼蔵』『永平清規(えいへいしんぎ)』などがある。

¹⁸道元の著書『永平清規(えいへいしんぎ)』のなかの一編。道元 35歳のときの作と伝えられる。衆僧の修行をつつがなくさせるための食事を調製し万事に親切に注意深くすべきことを教え、宋の禅寺の模様、見聞を交えながら、この台所役の宗教的意義、重要性を説いている。

¹⁹親が子を思うように他の人を思いやる心。

²⁰もの事をありのままに見つめるこだわりの無い心。

²¹江戸時代～大正時代にかけてのペスト上陸に際しては「ネズミ捕獲」作戦が一斉に行われた事例などが著名である（ネズミ退治はそれぞれの家で各戸により行ってしまうと、ネズミが他の家に移動するだけで効果を生まない。したがって、それは地域共同体が一斉に行って退治、防疫していたのである）、この点たとえば、常石敬一『戦場の疫学』海鳴社、2007年などを参照してほしい。

常における業として清潔を心がけてきたことがこのような非常時を常に最低限の被害で乗り越えてさせてきた大きな原動力となっていたのではなかろうか。

たとえば東日本大震災の際も災厄後の心のパニックが最低限で、被災者も平常心で他者を心配しながら整然と列を作っていた姿は他国のメディアにより感嘆の声をあげさせたことは記憶に新しい。オーストラリアのスカイニュースでは「水や食料の供給に整然した列で並び、乱暴な言葉や野蛮な行為は見られない。彼らの忍耐力は美しく、賞賛に値する。」と報道された²²。このような態勢が自然と身についていたのは、禅宗をはじめとする日本の歴史的な文化風土が構築してきた日本人の心にその原動力があったのではなかろうか。その心というのは禅においては上記の「喜心」に他ならないのである。

「喜心」という心は簡単に言うと、仕事を行うことへ喜びを感じる精神のことである。さらに、「典座教訓」の中の一説に「已に侘を利するが如く、兼ねて自利を豊かにし」という言葉があるが、この言葉は「他人のためにつとめることが、とりもなおさず自分自身を豊かに育てることに、ほかならない」²³という意味の言葉である。このような文から、この経典では、他人への感謝の心を忘れずに、自ら仕事を行うことで自分の成長につながるので、奉仕する喜びを忘れずに持ち続けるように、と述べていることが読み取れる。

幼少期からそのような心を持ち家事に参加するきっかけ作りとして、たとえば、小学校の毎日の宿題で勉強だけでなく、家事の項目を作ることで、家事に触れる機会を作ることができるのではなかろうか。大事なのは意思を行動に移すきっかけ作りであると筆者は考える。

今、このような道元の教訓を、現代に甦らせ、感謝の心や奉仕の心を忘れずに家事を自ら積極的にやることで、当事者の「精神の自立」、そしてそれがひいては「公共への貢献」を促進させることにも通じるのではなかろうか。

²² プレミアムサーチ株式会社ホームページ『日本人としての誇り—日本人から学んだ10の事（オーストラリアメディアより）』
(<http://www.premiumsearch.jp/article/13959007.html> : 最終情報確認日 2015年9月27日)

²³ 中村璋八、石川力山、中村信幸『作る心 食べる心』第一出版株式会社、1980年、p104-110

第4章 総括

家事というものは家庭内で行われる必要不可欠な仕事であるにもかかわらず、当たり前に行われている仕事であり、評価が低いことから、貨幣評価をし、数字で表したときに、とても大きな数字に感じる。その大部分を女性、家庭内の主に母親が担っているにも関わらず、世界的にみても、日本人の子供は家事を手伝わない傾向にある。その背景として、近代化や社会が豊かになったことで、手伝いをする必要性が減少し、他の事に費やす時間が増えたことがあげられる。しかし、現代の子供に調査を行った結果、母親の家事の苦労を理解し、やるべきとする意思をもつ子供が多数存在することがわかった。

また、現代の子供は身辺自立ができていないことが懸念されているが、幼少期から家事に関わることで、大人になったときの身辺自立度が大きく変わるという結果が得られた。

このような事実を踏まえ、実際に現代の子供が母親の負担や自立する力の欠如などの問題点を自覚し、奉仕の心による好影響を意識的に感じることで、自ら積極的に家事に参加することを促進させることが可能になり、自分にも周りの人々にも良い影響を与えることができるということがわかった。

日本人の若者は今一度、自分の行動を振り返り、自らのためにも、周りの人のためにも家事に積極的に取り組んでいくことが重要であると筆者は考える。

参考文献（日本語論文）

住田良仁「道元禅における日常生活の哲学」『文明研究所紀要』8号.1988年

荒井三津子、杉村留美子、片村早花「現代の手づくり弁当・その多様性と背景」
『北海道文教大学研究紀要』第35号、2011年

川端晶子「フランス哲学者の食卓と禅僧の食卓」『99春 Vesta』第34号、1999年

三橋洋子、小林幸子「永平寺修行僧の食事～道元禅師の典座教訓から学ぶ食の精神～」『和洋女子大学紀要、家政編』第40号、p139-149、2000年

新井真人「子どもの手伝いの変化と教育」『教育社会学研究』第53号、p66-86、1993年

表真美「ジェンダー形成・子どもの家事労働と人間形成」『京都女子大学発達教育学部紀要』1号、p73-79、2005年

津谷典子「ジェンダーからみた就業と家事—日本と韓国とアメリカの比較—」
『人口問題研究』56号、p25-48、2000年

藤野敦子「家計における妻の出生行動と就業行動：夫の家事育児参加と妻の価値観の影響」『人口学研究』31号、p19-35、2002年

末森慶「母親の就業特性が子どもに与える影響に関する研究動向と今後の課題—3つの理論仮説と先行研究の検討を通して—」『日本福祉大学福祉論集』124号、p55-70、2011年

大町淑子「家事労働に関する考察（第3報）」『千葉大学教育学部研究紀要』第42号、p231-242、1994年

多々納道子、戸田美和子「中学生の家事労働と家庭科」『島根大学教育学部紀要（教育科学）』第24号、p45-53、1990年

参考文献(英語論文)

堀井満恵、石田真由美、長谷川ともみ、小橋由希子「子どもを持ち仕事を続ける夫婦が執る育児・家事行動に関する研究」『富山医科薬科大学看護学会誌』3号、p51-60、2000年

参考文献（日本語本）

中村璋八、石川力山、中村信幸『作る心 食べる心』第一出版株式会社、1980年

道元『正法眼蔵』岩波文庫、1990年

ネルケ無方『迷える者の禅修行』新潮新書、2011年

大森和子、好本照子、阿部和子、伊藤セツ、天野寛子『家事労働』光生館、1981年

総理府青少年対策本部『国際比較－日本の子供と母親－』大蔵省印刷局、1982年

参考 URL

KAO INFORMATION 『「子供のお手伝い」調査』

http://www.kao.co.jp/lifei/info/110804/pdf/kodomo_otetsudai.pdf（情報最終確認日 2015年9月24日）

『農地売却早わかりガイド』

(<http://www.tawefest.com/agricultural-cooperatives.html> : 情報最終確認日 : 2015年9月23日)

内閣府ホームページ『子供と家族に関する国際比較調査の概要』

(<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/kodomo/kodomo.htm> :

情報最終確認日 : 2015年9月24日)

総務省統計局ホームページ

(<http://www.stat.go.jp/index.htm> : 情報最終確認日 2015年9月26日)

首相官邸ホームページ『すべての女性が輝く政策パッケージ』

(<http://www.kantei.go.jp/> : 最終情報確認日 2015年9月26日)

プレミアムサーチ株式会社ホームページ『日本人としての誇り－日本人から学んだ10の事（オーストラリアメディアより）』

(<http://www.premiumsearch.jp/article/13959007.html> : 最終情報確認日 2015年9月27日)